



三重陸協たより

三重陸協広報部発行

第1号

平成18年4月29日

いよいよシーズン開幕

トラックシーズンが、いよいよ開幕しました。今年は12月にアジア大会がドーハ(カタール)で開催されます。前回のアジア大会では安田覚選手が銀メダルを獲得するなど、三重県勢が活躍してくれました。今回のアジア大会へも三重県から代表選手が選ばれ、活躍してくれることとともに、インターハイや全日中・全国小学生大会などでも、次の世代を担う選手が活躍してくれることも期待したいと思います。

はばたけアスリート

今回は、昨年のインターハイで入賞し、今年の大阪インターハイでも活躍が期待される2名の選手紹介させていただきます。

☆ 男子 円盤投 大山 祐史(伊勢工業高校)選手 伊勢宮川中学校 出身
～夢は日本代表～

小学校時代はサッカーと相撲をしていたが、お父さんのすすめがあつて中学校から陸上競技を始めました。お父さんも高校時代、砲丸投16m54の記録を持ち、全国インターハイ2位の実績をもつ選手でした。自分でも努力をして、父のように全国でトップクラスの選手になれると思つて陸上競技を始めたそうです。

今シーズンの目標は、インターハイ円盤投で58m以上を投げ優勝、父の実績を越えること。また、円盤投の三重県高校記録(55m60)を樹立すること。また、兵庫国体少年A砲丸投でも優勝を目指すなど、力強い目標を語ってくれました。

目標とする選手は、昨年千葉インターハイ優勝の蓬田和正(国士舘大)さん。全国合宿などで親好が生まれ、色々とアドバイスをいただいたことで技術面がアップし、なによりも円盤投を深く知りたいという気持ちにさせてくれたことから、選手としてだけでなく人間的にも尊敬していますということです。

陸上競技を始めた頃から、日の丸・JAPANのユニフォームを着て日本代表選手として国際大会に出場することが夢だそうで、夢を実現させるための第一歩として、今年の実績が期待されます。

☆ 女子 走幅跳 遠藤 桃子(桑名高校)選手 白子中学校 出身
～自立した人間を目指して～

小学校4年生の終わり頃、少年団に入って何かスポーツをやりたいと思つていたところ、たまたま母が市の広報誌で陸上少年団を見つけ、走ることがもともと好きだったこともあり、軽い気持ちで入ったことがきっかけで、陸上競技を始めました。

現在は、高校の部活動では、周りの状況を考えながら、自分で考え、自分で行動することを学ぶ機会が多くあり、その中で自立した人間になることの大切さが分かり、それを自分の目標としているそうです。

また、目標としている選手は、高校の先輩の川瀬範子さん。どんなつらい状況でも明るく前向きで、笑顔を絶やさない、いつでも前向きな気持ちを持っている強さを尊敬しているそうです。

今シーズンの目標は、ズバリ6m20を跳び、インターハイで優勝すること。

目標の達成と活躍を期待します。